

床幅1m, 3条の千鳥植え

——永田 茂穂

キク科の1年生草本で、原産地は地中海地方です。「葉ちしゃ」ともいい、レタスの仲間のうち、結球しないタイプです。葉の形、大きさ、葉緑の形状や葉色の違いによって、多くの品種に分けられます。葉面に縮みがあり、葉色が淡紫色の品種はサニーレタス、紫色を帯びない緑色の品種はグリーンリーフレタスとそれぞれ総称されています。野菜の中では、栄養分の少ない方ですが、結球レタスに比べて、ビタミンA、Kを多量に含み、生食用に適しています。

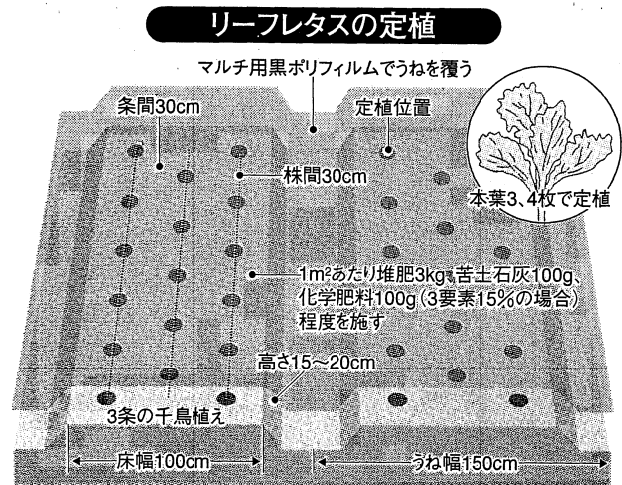
生育適温は18～23度で、冷涼な気候を好みます。生育期間の最高気温が25度以上になると、とう立ちの危険があります。露地栽培には春どり（4月まき6月どり）と冬どり（9月まき12月どり）の作型があります。ここでは、冬どり作型を紹介します。

播種期は、9月上～下旬です。市販の育苗用セル成型トレイ（200穴）に育苗用培土を詰め、種子を一粒ずつまきます。覆土は種子が見えるか見えないか程度に浅くします。たっぷりかん水して新聞紙で覆い、さらに新聞紙がぬれる程度水をかけ、涼しい所で育苗します。発芽までは乾燥しないように注意します。発芽したら新聞紙を取り除き、日光によく当てます。また、かん水を控えめにし、徒長を防ぎます。育苗期間は20～30日で、本葉3、4枚になったら定植適期です。

排水のよいほ場を選び、定植までに本ぼの準備をします。1平方mに堆肥3kg、苦土石灰100g、化学肥料100g（3要素15%の場合）程度を施し、耕うんします。葉が土で汚れないようにマルチ栽培をします。土に適度な水分があるときに、うね幅150cm、床幅100cm、高さ15～20cm程度のうねを作り、市販のマルチ用黒ポリフィルムで覆います。

定植は条間、株間ともに30cm程度で、3条の千鳥植えにします。苗は定植1時間ほど前にかん水し、根鉢に水分を十分持たせておきます。定植後は株元に十分にかん水し、活着を促進します。晴天が続く時は、適宜かん水を行います。定植後、1～2カ月程度で収穫になります。大きくなった外葉から1枚ずつ収穫する方法もあり、この場合、収穫期間が長くなります。

比較的低温には強いです。平均気温が10度を下回るころに、簡易な資材でトンネル被覆すると越冬栽培が可能です。生育が促進され、寒傷みが軽減されます。



(鹿児島県農業開発総合センター園芸作物部長)

平成21年8月13日(木) / 南日本新聞